

“See You Soon...”プロジェクト

活動報告書

2019年度

特定非営利活動法人 See You Soon

2020年4月7日

目次

1. 目的
2. 経緯
3. 参加メンバーおよび団体説明
4. 対象校、生徒の選定
5. 活動内容
6. これまでの活動
 - 1)福島ーブルネイダルサラーム
 - 1)-1. 第1回福島セッション
 - 1)-2. ブルネイセッション
 - 1)-3. 第2回福島セッション
 - 1)-4. エクストラセッション
 - ・第3回福島セッション
 - ・JICAグローバルセミナー
 - ・第4回福島セッション*
 - ・タイ キャンプ*
 - 1)-5. ブルネイ・スタディツアー*
 - 2)愛知ーミャンマー
 - 2)-1. 第1回愛知セッション
 - 2)-2. マンダレーセッション
 - 2)-3. 第2回愛知セッション*
 - 3)新潟-シンガポール
 - 3)-1. 新潟セッション
7. メディア掲載
8. 今後の活動予定

*新型肺炎の流行に伴い開催を見送ったもの

1. 目的

本活動は、次世代を担う学生に世界と繋がる感動と実感を得る経験をしてもらい、「将来日本の若者が世界に出ていくための”理由”を作る」ことをミッションとしている。

今般、ASEAN諸国のマーケットとしての重要性が益々高まっており、今後日本企業の現地進出を担う人材需要が増すと予想される一方、日本の若者のASEAN諸国への関心や、文化的多様性および社会情勢の理解は不足している。

このような状況には、日本社会全体として、ASEAN出身者との交流機会不足があると考えられる。その中でも、高校生の多くや、地方コミュニティに所属する若者については、交流機会が比較的限定的である。また、ASEAN諸国への留学機会が英語圏に対しても少ない。

したがって、当団体は、地方自治体との協力も通じて日本-ASEAN諸国での学生同士の交流活動を推進する。さらに発展して、ASEAN諸国へのスタディーツアー開催や留学サポートプログラムの提供等、直接的な支援も行うことも視野に入れて活動を行う。

2. 経緯

本活動を企画したのは、平成30年度内閣府東南アジア青年の船事業（以下、「事業」という）に参加した日本代表参加青年を発起人とした任意団体See You Soonのメンバーである。

この事業は、日本と東南アジア10か国の18～30歳の青年が、52日間にわたって船内で文化紹介やディスカッションを行い、日本を含めた5か国でホームステイを経験する国際交流活動である。なお、平成30年度事業に参加した東南アジアの国は、ASEAN（東南アジア諸国連合）に所属する、ブルネイダルサラーム（以下ブルネイ）、ミャンマー連邦共和国(以下ミャンマー)、カンボジア王国（以下カンボジア）、インドネシア共和国（以下インドネシア）、ラオス人民民主共和国(以下ラオス)、マレーシア、フィリピン共和国(以下フィリピン)、シンガポール共和国（以下シンガポール）、タイ王国（以下タイ）、ベトナム社会主義共和国(以下ベトナム)の10カ国であった。

事業では、日本代表参加青年が事業終了後に国内で行う活動（以下、「事後活動」という）を推進しており、本活動は事後活動の一環として位置付けている。活動にあたっては、事業で形成されたネットワークを活用し、日本代表参加青年と海外青年で協力して本活動を実施している。

3. 参加メンバーおよび団体説明

上記2. 経緯で述べたとおり、本活動の企画は事業に参加した日本代表参加青年が中心となっている。活動にあたっては任意団体See You Soonを設立し活動していた。2020年4月7日をもって、特定非営利活動法人See You Soonの設立が認可されている。

本年度の活動は日本青年国際交流機構（IYEO）との共催となっており、チャレンジファンド企画による助成金をもとにした活動を展開している。

なお、同事業代表参加青年の斎藤盛午が運営する一般社団法人文化教育交流センター（Cultural Bridge Japan）とは全く異なる団体である。

4. 対象校の選定

本年度の日本国内におけるプログラム実施地域は愛知県、福島県である。対象校の選定においては、事業のネットワークを活用し、広く参加を希望する学校を募った。

平成28年度内閣府東南アジア青年の船事業日本代表参加青年Youth Leaderの稲垣享一郎および中山智雄（平成30年度内閣府東南アジア青年の船事業OBSC）、過去福島で事業のローカルプログラムのホームステイ受け入れ経験のある福島県郡山市市役所国際政策課職員などの協力を経て、愛知県内では愛知県立高浜高等学校、福島県内では、安積黎明高等学校、郡山高等学校、郡山女子大学付属高等学校、あさか開成高等学校、福島南高等学校5校を対象に実施している。

5. 活動内容

上記「1.目的」で記載のミッションを達成するための、基本的なスキームは以下の通りである。

- ①日本の高校生からASEAN高校生への手紙を書いてもらう
- ②運営スタッフが実際に現地のASEAN各国の学生へ手紙を届ける
- ③ASEAN高校生から日本の高校生への返事を預かる
- ④日本の高校生に返事を届ける
- ⑤①～④の旅の過程を動画に収めたものを日本の高校生に見せることで”旅の追体験”をしてもらう
- ⑥SNSを活用した文通相手とのやり取りによって国境を超えた友情を育む
- ⑦スタディツアーという形で実際に日本の学生をASEANの文通相手に会えるようにするとともに、実際に異文化を体験できる機会を提供する

また、①～⑦のプロセスの実施を通して、セッションの参加者のうち希望する学生、若者を運営メンバーとして加えながら活動を拡大していくことを想定している。運営メンバーとして新たに加わる学生には、ASEAN各国の代表青年とのディスカッションなどを含む各セッションの企画運営を担う中で、より高い視座や成長と活躍の場を得て国際社会で活躍できる人材として育てて行くことを期待するものである。上記の育成プログラムは、事業への日本代表青年を中心とした大学生、社会人との1対1のメンター制度をベースに発展させていくことを想定している。

この取り組みにより、See You Soonプロジェクトが展開する各エリアにおいて、地域に根ざした活動を展開することが可能となり、高いサステナビリティを保持することを可能にするものである。

6. これまでの活動

上記①～⑦までを日本およびASEANの対象地域における学生との対面でのセッションを開催することで実施した。以下①～⑥のフェーズを実施するために、(1)福島県-ブルネイダルサラーム、(2)愛知県-ミャンマーで実際に実施したセッションについて述べる。

(1)福島ーブルネイダルサラーム

(1)-1. 第1回福島セッション

日時：2019年5月25日 10:00～12:30

会場：郡山市総合福祉センター

参加者：以下計96人（敬称略）

- ・運営スタッフ4名: 中野晃介、大森悠真、坂本純一、清水歌以
- ・ブルネイ運営スタッフ1名(オンライン参加) : Shakirah HS'b
- ・各学校担当教員5名: 大森千早(安積黎明高等学校)、星恭子(郡山高等学校)、横尾花恵(郡山女子大学付属高等学校)、小貫美穂子(あさか開成高等学校)、高橋真由美(福島南高等学校)
- ・福島県内の以下高校5校の国際科の学生および英語部部員80名: (安積黎明高等学校20名、郡山高等学校18名、郡山女子大学付属高等学校11名、あさか開成高等学校14名、福島南高等学校17名)
- ・陪席者3名：船と翼の会(福島IYEO)会長1名、郡山市市役所職員1名、福島民報 記者1名

実施内容：

(a)団体活動内容・背景の紹介

(b)ブルネイについての説明

(c)ブルネイ側代表参加青年とのビデオ会話

(d)ブルネイ側文通相手への絵葉書の作成

(a)団体活動内容・背景の紹介

事業についての説明、および代表参加青年の紹介をするとともに、See You Soonプロジェクトの説明を行った。

(b)ブルネイ国についての説明

日本人学生にブルネイを知ってもらうこと、ブルネイにより親近感を持ってもらうことを目的に、地理、文化、社会制度、民族料理などの基本情報および、ブルネイ人の社交性や家族愛などについて運営スタッフのホームステイ中の経験をもとに講義を行った。

ブルネイはイスラム教国であり、モスクの存在や女性がヒジャブを着用していることなどから、一見して日本文化との乖離を感じることも多い。しかし、例えば「ブルネイ女性にとって髪の毛を見せるのが恥ずかしいことは、日本で裸を見せるのが恥ずかしいことと同じ」などといった説明を通じて、文化背景が違うために価値観は一見異なるもの、実は根底にある考え方や感じ方は日本人とも共通であることを伝えた。

(c)ブルネイ側代表参加青年とのビデオ会話

事業のブルネイ代表青年から構成されるブルネイ側運営スタッフと日本人高校生の間でビデオ通話を行った。ビデオ通話の中で、ブルネイ運営スタッフの家の中などを案内してもらう時間も設けた。プレイルーム（お祈り用の部屋）があるなどといった日本との違いを感じたこと、ブルネイ運営スタッフのフレンドリーさを感じたことで、非常に印象に残ったという声がセッション内の感想シェアの時間に多く聞かれた。

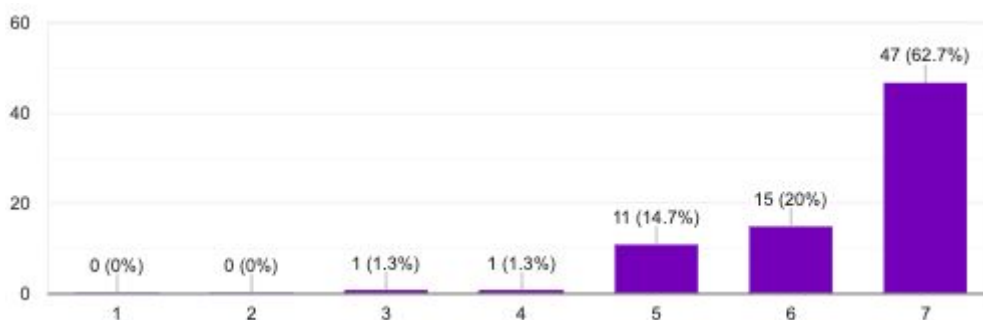
(d)ブルネイ側文通相手への絵葉書の作成

ブルネイの文通相手に届ける手紙を福島の高校生に書いてもらった。日本人学生にとっては英語面での不安もある中、グループ(4人ごと)でも協力して、手紙を完成させることができた。完成した手紙は、ブルネイセッション時に直接文通相手に届けるため運営スタッフが預かった。

なお、グループに関しては、80人の学生を20チームに分割した。各グループは参加校5校のうち4校の出身者から構成されている。参加した高校生からは、国際交流や異文化理解の促進のみならず、同年代の他校の学生との交流を促進する機会となった。このグループは、以下記載の7月13日開催の第二回福島セッションでも同じメンバーとして、さらなる交流の促進を図った。

参加者からの声：

本日の授業の満足度（1~7段階評価：1が「大変不満足」、7が「大変満足」）



良かったところ（自由記述）

- ・ブルネイ・ダルサラーム国がこんなにも素晴らしい国だと言うことに気づけたこと
- ・今まで知る機会がなかったブルネイについての理解が深められました。
- ・ビデオ通話で、実際にブルネイの家を見たり、お話を聞けたり出来て分かりやすかったです。
- ・ブルネイについて詳しく知れたので興味が湧きました。運営の方々もとても生き生きしていて憧れをもちました！次回も参加したいです！
- ・東南アジアの人たちのイメージが変わり、友達になってみたいと思いました！
- ・実際にブルネイの方の話すことができたところが良かったです。現地の人と話す機会はなかなかないので、いい経験になりました。

その他感じたこと（自由記述）

- ・ヨーロッパやアメリカだけでなく、東南アジアにも目を向けて見たいと思います！
- ・このプロジェクトでブルネイやグループについて知ることができ、より国際に興味を持ったり、交流をしたいと思ったりしたので本当に参加してよかったと思っています！ブルネイに行きたい！と素直に思えたプロジェクトでした！！
- ・東南アジアにあまり興味がなかったけど、今回話を聞いてすごく魅力を感じて興味が湧いて、ブルネイにも実際に訪れて見たいと思った！
- ・はじめは、ブルネイのことをよく分かっていませんでしたが、今回の企画を通して、ブルネイの人の温かさ、宗教を大切にする心が伝わってきました。

(1)-2. ブルネイセッション

日時：2019年7月5日 13:30~15:45

会場：Maktab Duli Pengiran Muda Al-Muhtadee Billah

参加者：以下計85名（敬称略）

- ・日本側運営スタッフ2名：中野晃介、大森悠真

- ・ブルネイ側代表参加青年9名：代表 Fazelah Yakub

- ・学生：以下4校より69名
 - Sayyidina Abu Bakar Secondary School：22名
 - Duli Pengiran Muda Al-Muhtadee Billah College：14名
 - Micronet International College：16名
 - Sayyidina Hasan Secondary School：17名
- ・担当教員：5名

実施内容：

- (a) 福島および福島セッションについて
- (b) 手紙の配布
- (c) 福島の文通相手への返信の作成
- (d) 手紙の回収と今後の流れについて

(a)福島および福島セッションについて

福島についての基本情報のインプットと福島の学生について理解を深めてもらうことを目的とした。

動画も用いて、福島の土地柄と福島セッションがどのように行われたのかについて説明を行った。福島の学生の様子や、手紙が描かれるまでの過程についても共有することで福島県と福島の学生に対して少しでも親近感を持ってもらえるよう設計した。

(b)手紙の配布

その後は本セッションのメインパートである手紙の受け渡しを行なった。日本の友人からの手紙には、裏面に美しい福島の風景の写真がプリントされ、表面には所属している部活動などを含むメッセージや好きな漫画やアニメの絵なども描かれていた。

ブルネイ人学生たちが興奮した様子で周囲の友人たちに自分の手紙を見せ合っている姿が印象的だった。班の中でも「あなたのも見せて！」と言いながら話し合う様子は我々が想像していた以上の盛り上がりであった。

その後運営側から、「是非全体に向けてあなたのペンパルや感じたことについて教えてください」と投げかけると一人の女の子が手を挙げてくれた。彼女は少し照れ臭そうだったが「ペンパルが描いてくれた絵がとってもキュートなんです！」と嬉しそうに話し、「班のメンバー1人1人が受け取った個性的な手紙を楽しみました」と全体に向けたコメントをしてくれた。

(c)福島の文通相手への返信の作成

手紙を受け取った後は、ブルネイ人学生が日本人学生に対して返信を作成するパートである。裏面にモスクなどの写真が載っている絵葉書に返信を書いてもらった。ペンパルから手紙を受け取ったときの感情や、福島へ行ったら何がしたいかなど、各々が自分の言葉でペンパルへの気持ちをつづった。

また今後も継続的なやり取りをしてほしいという思いから、自宅の住所を書いてももらったり、オンラインでの接続用にインスタグラムのIDを併記してもらった。ブルネイ側の学生の方が少なかったため、ある学生には2人分を書いてもらうなど臨機応変な対応が求められたが、現地スタッフの迅速な対応で福島側80人全員分の手紙を書いてもらうことができた。

自分のペンパルに手紙を渡すだけでなく福島県の文通相手へのプレゼントを用意しているという学生もいた。

(d)の回収と今後の流れについて

アンケート用紙に今回のセッションに対する評価等を書いてもらった（以下参加者からの声に記載）。

また、3月には福島の学生のうち希望者をブルネイに連れてくるスタディツアーを企画していることにも言及し、そこでペンパルや福島の学生たちと会えるということをお伝えした。

最後にブルネイスタッフを中心にこのプロジェクトを完了した証書授与と、記念撮影を行いセッションを終了した。

参加者からの声：

- ・ 福島と文通相手たちの日常について知ることができた
- ・ 日本に友達ができ、彼らと繋がる方法を学べた
- ・ インターネットで検索するよりも福島への親近感が湧いた
- ・ 文通相手に対してブルネイについてもっと知ってもらいたい
- ・ 文通相手とビデオ通話をしてみたい

(1)-3. 第2回福島セッション

日時：2019年7月13日 10:00～12:30

会場：福島県立安積黎明高等学校 講義室

参加者：以下計90名（敬称略）

・運営スタッフ3名: 中野晃介、大森悠真、坂本純一

・各学校担当教員5名: 大森千早(安積黎明高等学校)、星恭子(郡山高等学校)、横尾花恵(郡山女子大学付属高等学校)、小貫美穂子(あさか開成高等学校)、高橋真由美(福島南高等学校)

・福島県内の以下高校5校の国際科の学生および英語部部員76名: (安積黎明高等学校 21名、郡山高等学校 18名、郡山女子大附属高等学校 9名、あさか開成高等学校12名、福島南高等学校 16名)

・陪席者6名：

2018年度世界青年の船参加青年1名、福島大学学生 2名、2016年度東南アジア青年の船参加青年1名、一般見学者1名、福島民友新聞社記者 1名

実施内容：

(a)これまでの振り返りおよび返信の受け渡し

(b)ブルネイ文通相手とのオンライン交流

(c)運営スタッフからのメッセージ

(a) これまでの振り返りおよび返信の受け渡し

第1回福島セッション以降の流れを改めて編集した動画で学生に示した。

上記動画では、“旅の追体験”をテーマに、海外経験の乏しい日本人学生の多くが、自身がブルネイを訪れている状態を明確にイメージできるよう作成した。特に、海外に行きたいと思っても、漠然とどのようにしたら行けるのかがわからないのではないかと仮定し、スマートフォンの画面上で航空券の予約を行っている様子や、登場の様子なども含めて収録した。海外に行くことそのものを身近に感じてもらえるよう努めた。

また、ブルネイセッションの様子を写真や動画も交えて伝えた。ブルネイの高校生がいかにか熱心に返信を書いていたか、福島の学生との交流を心から楽しみにしていたと話してくれたブルネイ学生のことや、手紙の返信を書くにあたり自分の文通相手に特別に船の模型のプレゼントを用意してくれたブルネイ学生の様子を伝えた。

ブルネイから手紙が帰ってくる過程で、福島の学生それぞれが受け取った手紙には、ブルネイ学生がそれぞれの日本や福島の高校生に対する様々な想いが込められているのだということを感じてもらえるよう設計した。

(b)ブルネイ文通相手とのオンライン交流

手紙のやり取りを行った文通相手と、次はSNSを通じて交流してもらおうこととし、ビデオ通話、または、チャットを行ってもらった。ブルネイ文通相手が初の外国人の友達になる高校生がほとんどであったが、ブルネイとの共通点が見つかったり、文通相手の日本語や日本のアニメなどへの興味を知ったりしたことをきっかけに、学生同士が生き生きと交流している様子が見られた。

以下アンケート結果にもあるよう、交流に楽しみを感じてもらえたことやブルネイ人の友人という国境を超えた友情が育まれたことは、日本人高校生にとって「将来世界に出ていくきっかけを作る」良い機会となったと考えられる。

(c) 運営スタッフからのメッセージ

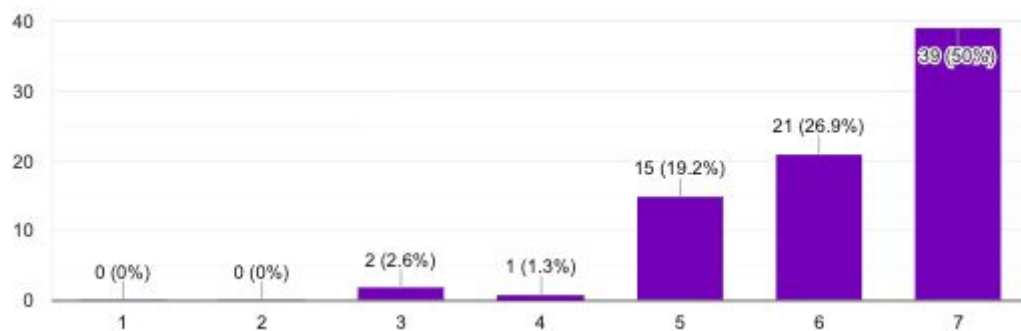
福島の高校生が自分たちも同じように世界に出られるのだということを実感してもらうため、運営スタッフであり、事業の日本代表参加青年の1人(福島出身)が福島県郡山市内の高校を卒業後、どのような経緯で「東南アジア青年の船」に乗り、その後どのような経緯でSee You Soonプロジェクトの運営を行っているのかを紹介した。

その上で高校生に対しては、国境を超えて友人を作ることの素晴らしさや、その友人を訪ねて外国を訪れる際の興奮を伝えるとともに、福島県の一つのコミュニティにとどまらずに積極的に外の世界に目をやってほしいと述べた。See You Soonプロジェクトがそうした自分のコミュニティの外に視線を置く学生に対して、夢を実現する視座と経験を提供するプラットフォームであるということを強調した。アンケート結果でも、何らかの形で海外に関わりたいとする高校生が非常に多かった。

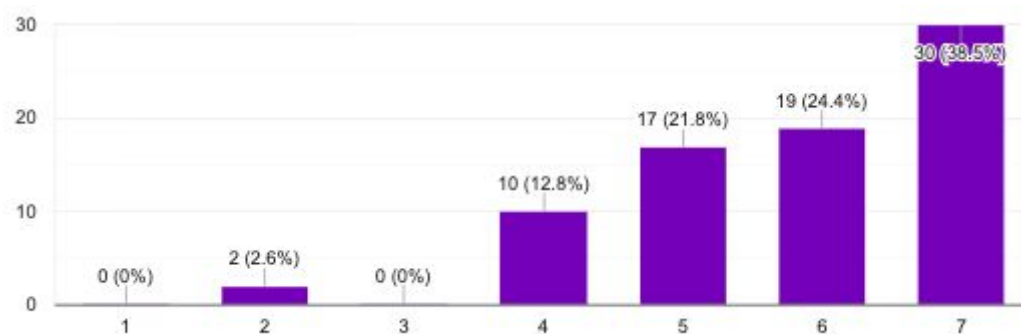
参加者からの声：

※1~7段階のうち、1が「前よりも低くなった」、7が「前より高まった」

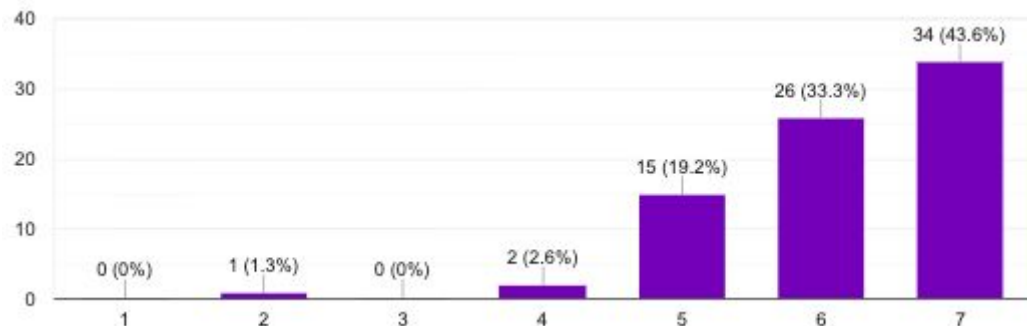
- ・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも、海外に行きたい気持ちが強まった。



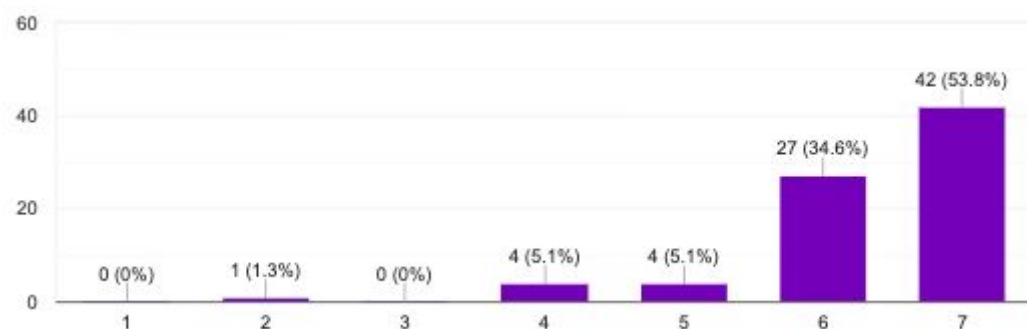
- ・ See You Soonプロジェクト参加前よりも、留学してみたい気持ちが高まった。



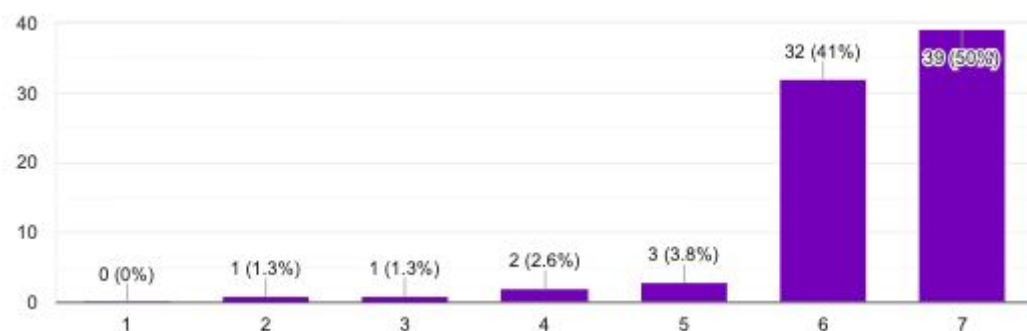
・ See You Soonプロジェクト参加前よりも、ブルネイに行ってみようという気持ちが高まった。



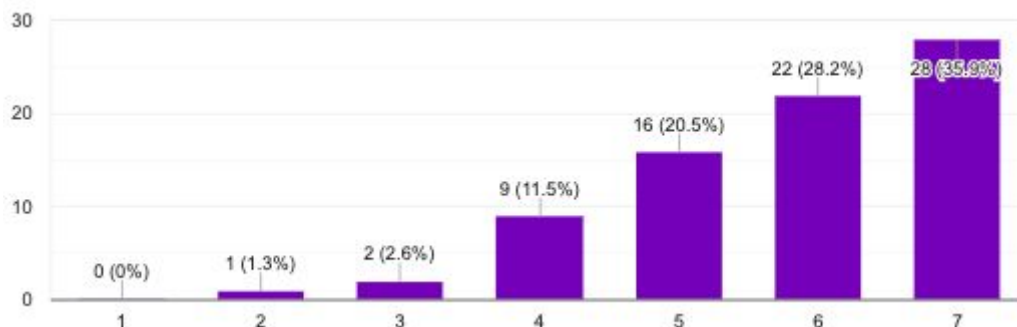
・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも、英語を学びたい気持ちが高まった。



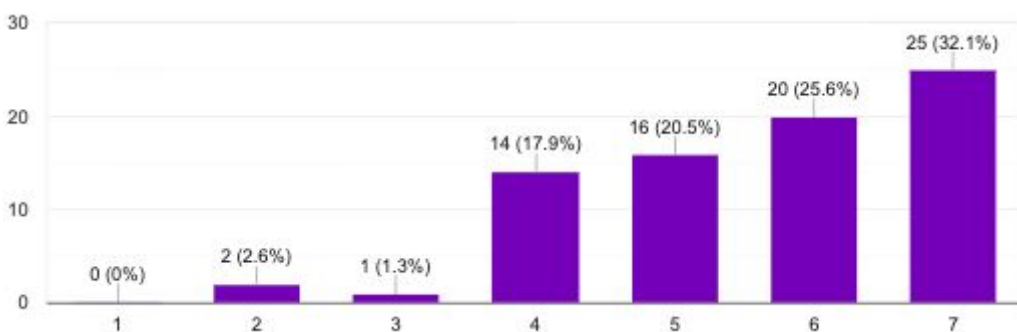
・ See You Soonプロジェクト参加前のときの気持ちが4だとしたら、英会話を学びたい気持ちが高まった。



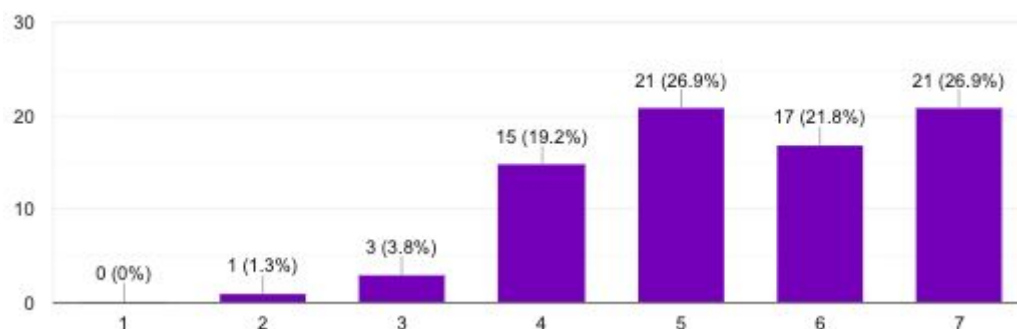
・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも国際交流に関するイベントの運営に興味が高まった。



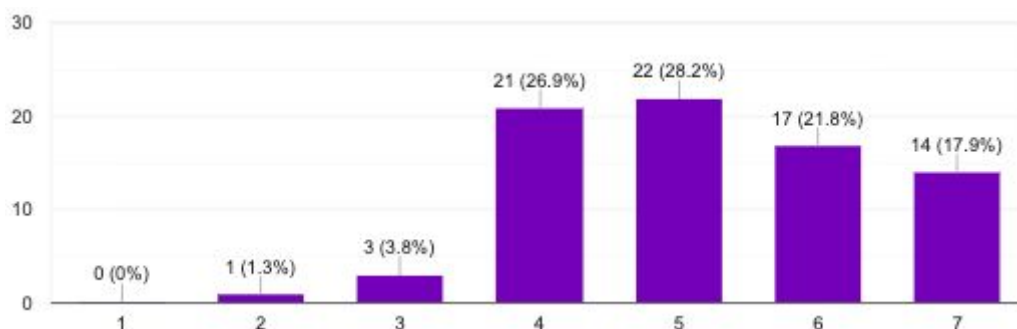
・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも、海外と関わる仕事がしたいと思った。



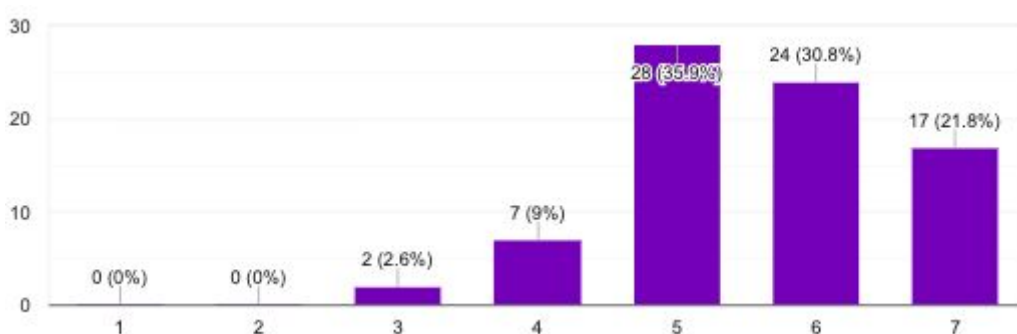
・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも、海外現地で働きたい気持ちが高まった。



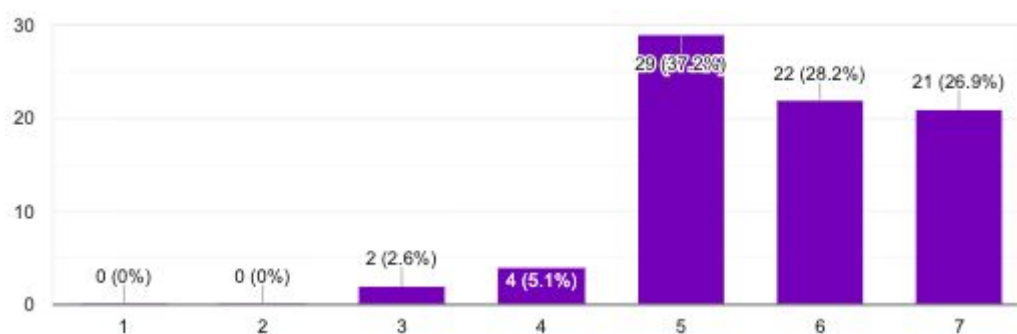
・ See You Soonプロジェクト参加前のときの気持ちが4だとしたら、東南アジアやブルネイで働きたい気持ちが高まった。



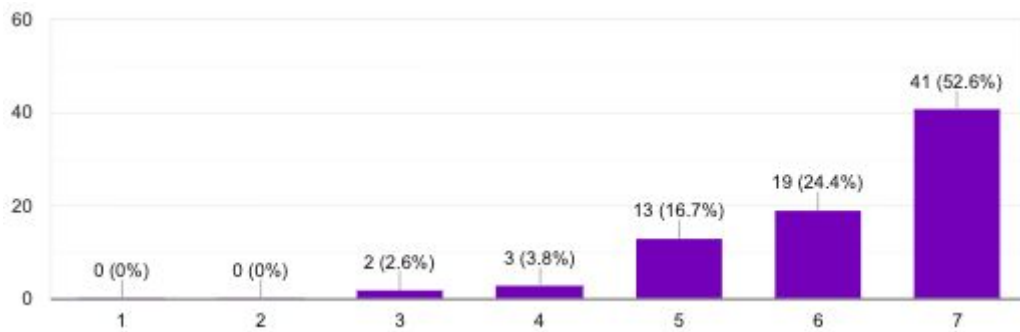
・ See You Soonプロジェクト参加前よりも、自分の気持ちが出せるようになった。



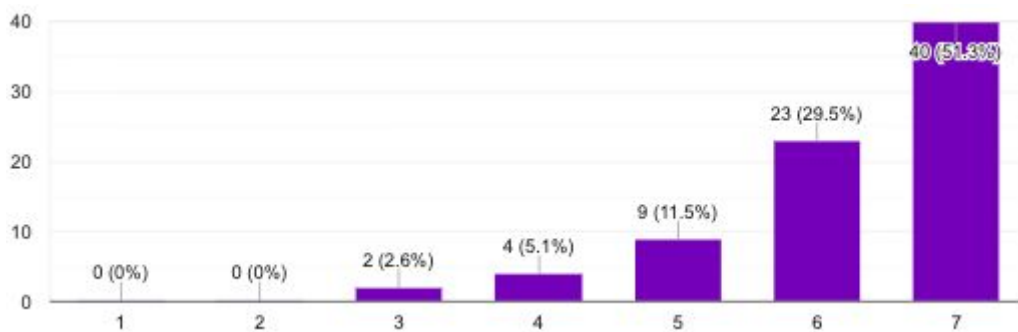
・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも、外国人との英語コミュニケーションについて不安が軽減された。



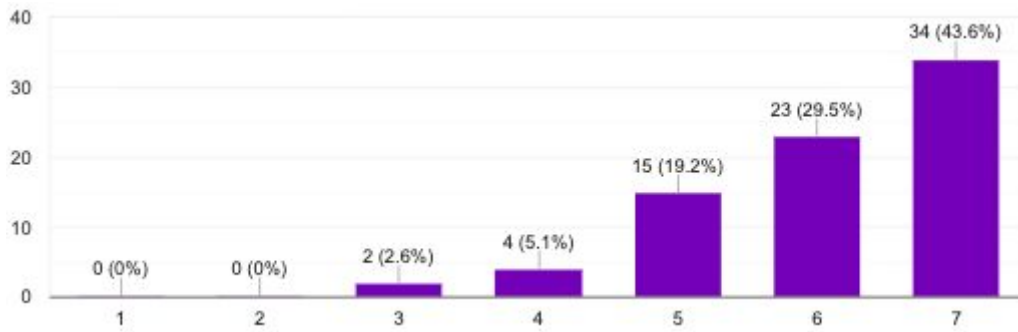
・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも、異文化交流が楽しいと思う。



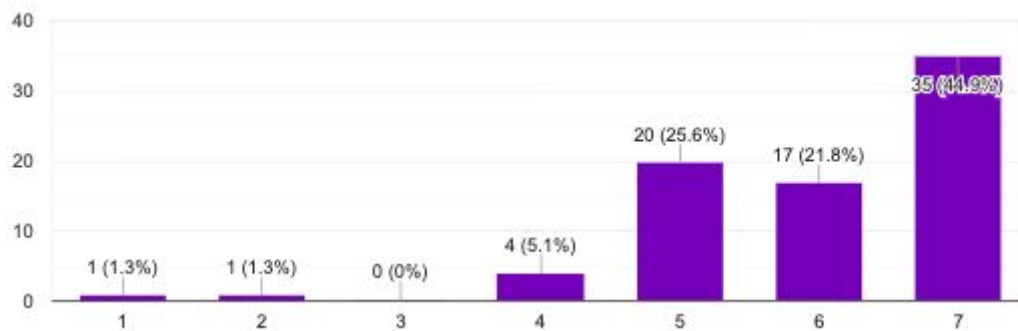
・ See You Soonプロジェクト参加前のときよりも、異文化との共通点、違いを知るのが楽しいと思う。



・このイベントは自分の価値観が変わる経験になりましたか？



・あなたはこのイベントを親しい友人や家族にどの程度おすすめしたいですか？



(1)-4. エクストラセッション

- 第3回福島セッション

日時：2019年9月28日 10:00～12:30

会場：福島県立安積黎明高等学校 講義室

参加者：以下計48人（敬称略）

- ・運営スタッフ3名: 大森悠真、坂本純一、斎藤健也

- ・マレーシア運営スタッフ（大学生）3名(オンライン参加)

- ・マレーシア代表青年2名：Daniel Choong Abdullah（第45回ユースリーダー）、
Cecillia Raj

- ・各学校担当教員5名: 大森千早(安積黎明高等学校)、星恭子(郡山高等学校)、横尾花恵
(郡山女子大学付属高等学校)、小貫美穂子(あさか開成高等学校)、高橋真由美(福島南高
等学校)

- ・福島県内の以下高校5校の国際科の学生および英語部部員34名: (安積黎明高等学校8
名、郡山高等学校7名、郡山女子大学付属高等学校2名、あさか開成高等学校7名、福島
南高等学校10名)

- ・陪席者3名：船と翼の会(福島IYEO)1名、福島大学大学生2名

実施内容概要：

ブルネイに続き、イスラム色の強い東南アジアの国としてマレーシアを紹介した。マレーシア代表青年や現地の大学生にオンラインで参加してもらい、グループごとに英語でディスカッションを行なった。当日は、第二回福島セッション時に高校生の中から募った運営参加希望者ととも企画運営を行なった。運営への参加を希望した高校生3名は留学経験や国際経験があるものが多かったため、自身の国際交流の経験についてもかくじプレゼンしてもらった。運営メンバーとなった高校生の成長の機会となったとともに、同世代のプレゼンを聞いて刺激を受けたと語る参加者が多かった。

- JICAふくしまグローバルセミナー「自主セッション」

日時：2019年10月26~27日

会場：JICA二本松青年海外協力隊訓練所

参加者：以下計7人（敬称略）

※当報告書にはSee You Soonプロジェクト関係者のみ記載

・運営スタッフ2名: 中野晃介、大森悠真

・福島県内の以下高校5校の国際科の学生および英語部部員2名:(郡山高等学校1名、あさか開成高等学校1名、福島南高等学校2名 ※うち2名は以下詳述の「自主セッション」の準備のみ参加)

・JICAグローバルセミナー概要：

※以下独立行政法人国際協力機構HPより抜粋。

「グローバルセミナーは、二本松市にJICAの青年海外協力隊訓練所が設置されたことを契機に、1997年（平成9年）に「東日本国際協力セミナー」という名称でスタートし、2019年（令和元年）で通算23回目の開催となります。

学校や地域において、国際交流、国際協力、多文化共生、国際理解教育・開発教育等の活動を担う人材を育成することを目的に開催され、毎年、県内外より多くの方々のご参加をいただいております。」

（“ふくしまグローバルセミナー2019～いま開こう！世界へのトビラ～”，独立行政法人国際協力機構. 2019/12/22参照.
<https://www.jica.go.jp/nihonmatsu/event/2019/ku57pq00000lf6k7.html>)

実施内容概要：

運営メンバーとして参画している福島県内の高校生がより大きな視野と国際協力に関する理解を得ることを目的に上記グローバルセミナーに参加した。

同時に、グローバルセミナー内の「自主セッション」の時間では、See You Soonの高校生運営スタッフのうち参加を希望した4名(当日の発表者は2名)が「なぜ一人でトイレには行けるのに、国際交流には参加できないのか」をテーマにセッションを企画、運営した。「自主セッション」とはグローバルセミナーの参加者のうち、有志のメンバーがそれぞれの経験や知見について共有を行うことができる時間である。高校生スタッフがSee You Soonプロジェクトへの参加体験や2019年10月に行われた第46回内閣府国際交流事業「東南アジア青年の船」福島プログラムにてローカルユースとして参加しASEAN各国からの代表青年とのディスカッションを行なった経験を元に、身近な場所にもそうした国際交流の機会があること、そしてそうした経験が個人として非常に糧になっているという話を話し、自主セッションへの参加者に積極的なアクションを促した。

- 第4回福島セッション(スタディツアー参加者オリエンテーションを含む)

日時：2020年3月7日 10:00～12:30

会場：郡山市総合福祉センター

本セッションは、これまで連続的に各セッションに参加していた約30名の高校生を対象にASEANの他地域についても理解を深めることを目的に、See You Soon高校生運営スタッフを中心に企画を行った。主には以下の3つの構成パートにより実施予定であった。直近の長期休みを利用してカンボジアの孤児院でのボランティアを経験した高校生運営スタッフの経験談と、オンライン通話にて事業のカンボジア参加青年との対話という両面からカンボジアを理解しようという試みであった。その上で、参加している高校生それぞれが、国際交流という枠組みの中で今後の自分のアクションプランを考えることで、さらなる発達につなげることを目指した。

新型肺炎の流行に伴い、開催地でもある福島県郡山市が2月20日の健康危機対策本部会議にて設定した以下指針*を踏まえて、開催中止としている。

*「新型コロナウイルス感染症対策について」 第2回郡山市総合教育会議 保健福祉部保健所,2020/03/03.

「〈1〉不急なイベント〈2〉大規模なイベント〈3〉不特定多数が集まるイベント」のいずれかに該当し、せきやくしゃみによる「飛沫（ひまつ）感染」「接触感染」の可能性が高いと判断した場合、中止、または延期を検討」

<https://www.city.koriyama.lg.jp/material/files/group/45/siryou001.pdf>

- タイキャンプ

日時：2020年3月14~15日

会場：郡山市総合福祉センター

本セッションは、事業の日本代表参加青年である斎藤盛午が運営する一般社団法人文化教育交流センター (Cultural Bridge Japan)*の「日タイ文化アンバサダー2020」のプログラムの一環として、See You Soonの参加高校生とタイ参加青年との交流イベントを共同開催する予定であった。

当プログラムへの参加が内定していた青年のうち一部が2019年11月30日にタイ南部で発生した洪水*により参加が難しくなったこと、及び日本国内の新型肺炎の流行状況を鑑み、開催中止としている。

*一般社団法人文化教育交流センター (Cultural Bridge Japan)

https://www.facebook.com/culturalbridgejapan/?eid=ARAUMk_hlbmqutdgZ64MPYvc1CemeG_6z1HmAnJJPPtDhVVvsJLk1BObZVbvverdWma3QA9fFr98QI4

*Thailand – 60,000 Affected by Floods in Narathiwat Province, FLOODLIST NEWS IN ASIA, 2019/12/08

<http://floodlist.com/asia/thailand-floods-narathiwat-december-2019>

(1)-5. ブルネイスタディーツアー

日時：2020年3月20~23日

会場：ブルネイ・ダルサラーム

参加者：以下計9人（敬称略）

※ブルネイ側現地スタッフは除く

・運営スタッフ2名: 中野晃介、大森悠真

・福島県内の以下高校5校の国際科の学生および英語部部員5名:(郡山高等学校1名、あさか開成高等学校1名、安積黎明高等学校2名、福島南高等学校1名)

・福島県福島市在住 成人2名

(a) 開催内容

第1回、第2回福島セッション及び、ブルネイセッションによって、福島県とブルネイ学生間でペンパルとしてのつながりを作ることができた。本スタディツアーでは、「人に会いに海外に行こう」をテーマに、ブルネイ人ペンパルとの対面やホームステイをメインとしたプログラムの実施を予定していた。

(b) 実施体制

参加希望者の募集は、第2回福島セッションの参加学生を対象に行い、最大催行人数10人(引率2名を含む)、最小催行人数は6人であった。

実施にあたっては、企画をSee You Soon、旅行取扱を株式会社 林旅製作所 (埼玉県知事登録旅行業 第3-1192号)が担い、旅行業法に乗っ取った適法な形で企画、運営されていた。また、特に現地プログラムのアテンドについては、See You Soonから事業のブルネイ参加青年及び同OB会組織であるSSEAYP International BruneiのYang Di-Pertuaと共に調整を行った。

(c) プログラムスケジュール

日付	日程	時間	スケジュール	滞在
3月20日	1日目	AM 9:30	成田空港国際第1ターミナル集合	ホームステイ
		PM	バンドルスリブガワン空港到着	
		PM	ホストファミリーとの対面	
3月21日	2日目	AM	ロイヤルレガリア(王立博物館)訪問	ホームステイ
		PM	ブルネイ人学生との交流	
			ナイトマーケット(Gadong Night Market)にて夕食	
3月22日	3日目	AM	SSEAYP International Brunei 訪問	機内
			→日ブルネイ関係についてレクチャーと簡単なディスカッション	
		PM	水上村、モスク(Masjid Omar Ali Saifuddien)観光	
		PM	バンドルスリブガワン空港発	
3月23日	4日目	AM 07:30	成田空港国際第1ターミナル到着	帰宅
		AM	在日ブルネイ大使館 訪問(東京 品川)	
		PM 15:30	品川駅 解散	

(d)開催中止の経緯

本スタディツアーは、世界的な新型肺炎の流行を鑑み、2月26日時点で開催中止としている。中止とした背景としては以下の通りである。なお、学生の健康と安全を重視した結果の中止であり、迅速な対応が求められるという状況の中であったことから、発生したキャンセル料についてはSee You Soonが全額負担する形となっている。

- ・「実施取りやめによる学生にとっての機会損失」と、「万が一感染が起こった時の健康被害/入院などによる機会損失/完治後に発症者として見られることによる将来的影響」などを検討した結果、後者の方が圧倒的に影響が大きいと考えていること。
- ・前回検討時(2月19日)以降、国内外における感染が想定を大きく上回る速度で拡大しており、すでにアメリカ合衆国や台湾を含む複数の国が自国民の日本への渡航警戒レベルを引き上げているなど、今後規制が強化されていく見込みであること。
- ・感染予防法、治療法が確立されておらず、運営側として状況をコントロールできる可能性が限りなく小さいこと。

*2月26日時点 参加予定学生の保護者宛開催中止連絡のメールより抜粋

(e)中止決定後の対応

参加希望者へは2月26日中に通知し、その時点で発生したキャンセル料¥129,800については、See You Soonの負担としている。3月4日時点で、キャンセル料は株式会社林旅製作所へ支払済みである。また、各セッションに参加頂いていた各校の教員、福島IYEO、ブルネイスタッフ、SSEAYP International Bruneiへも2月27日以降順次通知を行なっている。

参加希望者の保護者や各校教員からは我々の対応に対する賛辞が寄せられており、2020年度以降の開催を行うための関係各所との関係維持、及び、信頼構築の観点から、本決定は今後の福島県でのSee You Soonの活動に資するものであった。

2)愛知ーミャンマー

※愛知ーミャンマープロジェクトについては、学校内のカリキュラムに組み入れられ、授業時間内での限られた状況での開催となったこともあり、ミャンマースタディツアーの実施は行わないことを前提にプロジェクトを展開した。

2)-1. 第1回愛知セッション

日時：2019年5月15日/5月17日

※クラス毎の授業時間を利用してセッションを行ったため、複数日程にまたがった開催となった。

会場：愛知県立高浜高等学校

参加者：以下計164名（敬称略）

- ・運営スタッフ3名: 中井大輝、神田彩乃、新井真由香（第45回事業参加青年）
- ・愛知県立高浜高等学校教員1名: 稲垣享一郎(第43回事業参加青年ユースリーダー)
- ・愛知県立高浜高等学校生徒160名:2学年4クラスおよび3学年1クラス

実施内容：

- (a)団体活動内容・背景の紹介
- (b)ミャンマーについての説明
- (c)ミャンマーの高校生の様子について
- (d)手紙の作成

(a)団体活動内容・背景の紹介

事業の説明および、See You Soonプロジェクトの説明を行った。運営スタッフの事業を通しての経験を元に国際交流の素晴らしさ、意義について伝えるとともに、プロジェクトで実現したい「子供達が将来世界に出て行く理由を作る」という目標について共有した。

(b)ミャンマーについての説明

事業の参加青年であり当時ミャンマーに留学中の清水万由の協力を得て、ミャンマーの地理、宗教、文化、政治、歴史について簡単なレクチャーを行なった。さらにミャンマーに特徴的な「ロンジー」などを含む伝統衣装を実際に持ち込み披露したり、「タナカ」という植物から作られるフェイスペイントなどについても紹介した。

(c)ミャンマーの高校生の様子について

ミャンマーの学生に向けて手紙を書いてもらうため、現地の高校生がどのような生活をしているのかがわかるよう、写真などを用いて簡単に解説を行なった。ヤンゴンにある現地の公立高校の様子を紹介したり、統一テストに向かう学生たちの様子を説明した。

(d)手紙の作成

高浜高校では、生徒が各々の素材、デザインで手紙を作成した。学生一人一人が持ち寄った折り紙や便せんなどを使い、自分の趣味や好きなこと、日本や愛知についてミャンマーの学生に知ってもらいたいことなどを手紙に書き留めた。また、稲垣先生の提案で、全員がミャンマーの学生に向けて小さなプレゼントを持ってきており、お菓子やキーホルダーなどを手紙に添えて運営スタッフが預かることとなった。

2)-2. マンダレーセッション

日時：2019年11月5日

会場：The Conqueror Academy of Education(ミャンマー、マンダレー)

参加者：以下計160名（敬称略）

- ・運営スタッフ2名: 中野晃介、池田昂一郎

- ・ミャンマー代表参加青年2名：Eric Lo（第45回ユースリーダー）、Khant Khine

- ・ミャンマーナショナルリーダー(第45回事業)1名：Ei Ei Mon
- ・The Conqueror Academy of Education 学生：156名
- ・担当教員：5名(Principalを含む)

(a) 愛知および愛知セッションについて

(b) 手紙の配布

(c) 福島の間通相手への返信の作成

(d) 手紙の回収と今後の流れについて

(a)愛知および愛知セッションについて

愛知についての基本情報のインプットと愛知の学生について理解を深めてもらうことを目的とした。

動画も用いて、愛知の土地柄と愛知セッションがどのように行われたのかについて説明を行った。運営スタッフには愛知県出身者がいなかったため、See You Soonのメンバーが”愛知県で育つということ”をテーマに作成した動画を見せることで愛知県の高校生の生活をイメージできるように工夫した。

なお、ミャンマー学生の英語の習熟度などを考慮し、セッション全体を通して運営スタッフからの発言については全てミャンマー代表青年の通訳を伴って進行した。

(b)手紙の配布

その後は本セッションのメインパートである手紙の受け渡しを行った。愛知の高校生からの手紙は各人の自作であるためそれぞれデザインが異なっており、ミャンマーの学生間で交換して見せ合っている様子が伺えた。

(c)愛知の文通相手への返信の作成

愛知学生への返信用に用意したミャンマーのA6サイズのポストカードをミャンマー学生に渡すと、多くの学生が「スペースが小さい」「もっと書きたい」「他に書ける紙はないのか」と訴えたため、急遽手持ちのノートなどの別紙に追記してもらい、それを絵葉書にホチキスで止めるようにした。ブルネイと比べても非常にシャイな学生が多いと感じていたが、この時はとても積極的に訴えかけてくる姿が印象的であった。また、愛知の学生からのプレゼントを受けて、「自分も何か届けたいがこれを届けてくれますか？」と、運営スタッフに対して自身が持っていたアクセサリなどを渡してくれたミャンマー学生も複数いた。

またブルネイと同様に今後も継続的なやり取りをしてほしいという思いから、自宅の住所を書いてもらったり、オンラインでの接続用にインスタグラムのIDを併記してもらうよう依頼したが、ブルネイと比べてソーシャルメディアの使用率があまり高くなく、運営スタッフの所感としてFacebookなどを含めてアカウントIDなどを記載する学生は全体の30%満たない印象であった。

(d)回収と今後の流れについて

最後にミャンマースタッフを中心に記念撮影を行いセッションを終了した。

2)-3. 第2回愛知セッション

愛知県立高浜高等学校にて、ミャンマーからの返信を届けるとともに「マンダレーへの旅の追体験」の機会を提供するセッションを2020年2月末に開催予定であった。しかし、新型肺炎の流行もあり、愛知県立高様高等学校側との日程の調整が付かず、愛知県立高浜高等学校側協力者である稲垣享一郎に手紙の配布を依頼することとなった。

(3)新潟－シンガポール

(1)-1. 新潟セッション

日時：2020年1月26日 10:00～12:30

会場：新潟大学 教室

参加者：以下計6人（敬称略）

- ・運営スタッフ2名:志村紗希、丸川真由子(第46回事業参加青年)
- ・参加者: 4名：新潟県IYEOの小林会長経由で応募いただいたEnglish Keik Shop生徒

本セッションの位置付け

本セッションは、今後新潟県でSee You Soonの基盤を築いていくため、第46回事業参加青年と共に試験的に企画、実施したものである。

なお、2020年度については、新潟県新潟市の日本文理高等学校の英語部の活動の一環としてセッションを実施していくことを検討している。

実施内容：

- (a)団体活動内容・背景の紹介
- (b)シンガポールについての説明
- (c)手紙の作成練習

(a)団体活動内容・背景の紹介

事業についての説明、及び運営スタッフである代表参加青年の紹介をするとともに、See You Soonプロジェクトの説明を行った。

(b)シンガポールについての説明

参加者にシンガポールを知ってもらうこと、シンガポールにより親近感を持ってもらうことを目的に、地理、文化、社会制度、民族料理などの基本情報や運営スタッフのホームステイ中の経験について講義を行った。

(c)手紙の作成練習

当セッションは、実際のシンガポールへの手紙交換を想定していないため、英語力の向上などに焦点を当てて英語にて手紙を書く練習を行った。英語の表現などについては運営スタッフの補助を伴いながら、初めて「英語の手紙」を書く経験をできたことを喜ぶ声が上がっていた。

7. メディア掲載

2019年5月27日福島民友

『ブルネイ国際交流活動開始 「青年の船」事業OBら 郡山で始動イベント』

**ブルネイ国際交流活動開始
「青年の船」事業OBら
郡山で始動イベント**

手紙を書いた。機構は、昨年に実施された内閣府青年海外派遣事業「東南アジア青年の船」の参加者が今年二月に発足させた。代表を務める東京都の会社員中野晃介さん（ミヤ）や、郡山市出身の大森悠真さん（ミヨシ）が「青年の船」を通じて知り合ったブルネイの青少年との交流を目指している。

イベントには福島、郡山両市の高校生約八十人が参加。ブルネイの文化について知識を深めた後、インターネットをつなぎ、現地の若者と英語で会話した。引き続き、県内の風情写真が印刷された絵はがきに生徒が簡単な自己紹介を書いた。今後は現地の若者と高校生が直接連絡を取り合い、交流を深める。機構は高校生が渡航するスタディーツアーも実施したい考えで、クラウドファンディングなどでの資金集めを計画している。

東南アジア・ブルネイと本県など日本の若者の交流を促進しようと、「日本ASEAN（東南アジア諸国連合）青少年国際交流推進機構」は「シー・ユース・インタープロジェクト」をスタートさせた。第一弾となるイベントが二十五日、郡山市総合福祉センターで開かれ、高校生がブルネイに送る

若い世代の交流促進に尽力する大森さん（左）

2019年7月15日福島民報

『ブルネイ人学生と文通 県内5校の高校生 手紙の返事、協力して解説』

ブルネイ学生と文通

県内5校の高校生 手紙の返事、協力して解説

日本と公認の地域の交流事業を担う日アセン青少年国際交流推進機構によち本県とブルネイの交流事業として八月、ブルネイの学生に向け手紙を送った県内の高校5校の生徒は毎日、郡山市の空積閣明高で手紙の返事を受け取った。

同機構が郡山出身の大森悠真さん（駒大4生）を参加しているのは福島を中心に、本県の高校生は外南空積閣明、郡山、あさか、あさか、あさかの各校の英語科や英語部を中心として企画。ブルネイの公立高校の英語科や英語部から用紙を借り、郵送する生徒約八十人、書き手教育を強化しており、読者の顔写真を添えられた手紙の少ないという大森の「生徒同士相談しながら文化に触れやすいところから解説した。」

手紙に「将来は振付師になりたい。ダンスは好きです」と書いた神田涼帆さん（福島南高2年）は、「Kポップ（韓国のポピュラーミュージック）のダンスを覚えて踊るのが流行」と返ってきたという。「はじめてのものは似ている分かつた。国は違っても、思っているものは同じなのかも。世界って狭いと感じた。」

ブルネイから届いた手紙の返事を読む生徒

8. 今後の活動予定(2020年度)

a)活動方針

今後は活動をより地域に根ざしたサステイナブルなものとするため、そして各地域の学生をより強力に東南アジアに送り出し、未来の日本代表参加青年ひいては日ASEAN関係に貢献できる人材を生み出して行くため、各地域の学生および各都道府県に支部を持つIYEOのネットワークを活かしながら拡大して行くものとする。

そのために、各展開地域にて、学生や若者に対してより多くの国際交流の機会を提供していくことを第一目標とする。

また、新型肺炎の流行の状況を受けて、各種セッションの実施が難しくなる可能性もある。随時状況を見つつ、各地域の関係各所と相談しながらスケジュールの調整及び実施可能性を探っていくものとする。

b) 2020年度展開予定地域(状況により可変)

・開催予定

福島県-インドネシア

新潟県-ベトナム

栃木県-ブルネイ

・調整中

京都府-ミャンマー

神奈川県-マレーシア

特に、すでに福島県、新潟県、栃木県では各都道府県IYEOとの連携を強めており、今後各都道府県での内閣府事業の受け入れプログラムや独自のイベントの実施に際して協働していくことを念頭に活動を進めていくものである。

※上記は、手紙交換及びスタディツアーの実施に関わる一連のセッションの実施の際の組み合わせであり、状況に応じて、年間の活動の中では他ASEAN諸国の紹介やオンラインでの青年との交流を行う可能性もある。

9. 謝辞

2019年度See You Soonプロジェクトの活動にあたり、同年8月に実施した以下クラウドファンディングにて、78名の方に総額862,000円のご支援頂いております。特に以下のお三方は同クラウドファンディングにて、多額のご支援を賜りました。

- ・大宮 裕子 様
- ・松岡 佑香 様
- ・Takano Makoto 様

※順不同

※表記は振込時の登録名

メンバー一同、心より御礼申し上げ、感謝の意を表します。皆様から賜りました想いを支えに、より多くの若者がASEAN諸国に深い関心を持つことのできるような機会の提供、ひいては、未来の日-ASEAN関係を担う人材の輩出に貢献していけるよう、より一層精進して参ります。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。